

会社概要

(2013年2月28日現在)

社名	ソーバル株式会社
設立	1983年1月
本社所在地	〒146-0092 東京都大田区下丸子 3-25-14 ソーバルビル
資本金	212百万円
事業内容	○エン지니어リング事業 ・ハードウェア・ソフトウェアのエンジニア派遣 ・ハードウェア・ソフトウェアの受託開発 ○その他事業 ・RFID 事業、ネット関連事業
社員数	連結：885 名 単体：810 名
ホームページアドレス	http://www.sobal.co.jp/

役員紹介

(2013年5月28日現在)

取締役会	代表取締役社長	推津 順一	執行役員	最高執行役員	推津 敦
	取締役副社長	推津 敦		専務執行役員	河原 浩一
	専務取締役	河原 浩一			稲葉 勝巳
		稲葉 勝巳			西岡 建太
	常勤監査役	吉岡 秀勝			井上 一幸
	監査役 (弁護士)	嶋田 雅弘			岩崎 恭治
監査役 (公認会計士)	吉田 光一郎	植田 年青			
		川田 美則			
執行役員	常務執行役員	新居見 憲治			
		古屋 繁之			
		杉山 義雄			
		宮澤 克行			
		両瀬 賢一			
		大久保 仁美			
		執行役員	山林 敬		
			猪狩 安広		
伊藤 光男					
				林 雅伸	

株式の概況

(2013年2月28日現在)

上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード)市場
証券コード	2186
発行可能株式総数	14,800,000 株
発行済株式総数	4,347,200 株
単元株式数	100 株

株式手続き情報

(2013 年4月1日現在)

定時株主総会	毎年 5 月
配当金受領株主 確定日	第2四半期：8 月 31 日 期末：2 月末日
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード) 市場
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内 1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
各種照会先	【諸届け】 住所・氏名のご変更、配当金受取り方法のご指定 などに関するお問合せ、各種手続きに必要な書類 のご請求はお取引の証券会社までご連絡下さい。 【特別口座で管理されている株式】 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂 7-10-11 ※お問合せ：三菱UFJ信託銀行株式会社証券代 行部テレホンセンター（受付時間：土・日・祝祭 日を除く平日 9:00 ～ 17:00） 0120-232-711（東京）
公告方法	電子公告の方法により行います。但し、電子公告に よることが出来ない事故その他やむを得ない事由 が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 【公告掲載 URL】 (http://www.sobal.co.jp/stockholder/)

お問合せ先



ソーバル株式会社
IR担当窓口
〒146-0092 東京都大田区下丸子3-25-14ソーバルビル
TEL:03-5482-1420 (受付時間 平日 9:00～16:30)
IRサイトアドレス： <http://www.sobal.co.jp/ir/>

株主通信 2013

2012年3月1日 - 2013年2月28日（第31期）

社是

Company creed

技術で社会に貢献する
We contribute to the society
by providing technical services.

目次

Contents

- 4. 社長メッセージ
- 6. 事業概況
- 8. 第31期の総括
- 9. 今後の見通し
- 10. ソーバルの戦略
- 12. 業績ハイライト
- 13. 財務諸表
- 14. 株主優待のご紹介
- 15. 配当政策、株主情報
- 16. 会社 / 株式情報

企業にとって、最大の資源は人材です。



時下、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

企業にとって、最大の資源は人材です。

私どもは、高い意識と技術をもつ人材が、充実した環境で働くことが価値あるテクノロジーを生み出す近道だと考えております。そのため、長年、人材開発と教育に投資を続け、IT分野の技術革新とその蓄積を続けてまいりました。

経験豊富な人材を合わせ持つ、国内有数の独立系組み込みシステム開発企業と、お客様からも高いご評価をいただいております。

分野としては、コンシューマ向け製品から特殊分野で用いられる装置まで多岐に渡り、範

囲をみても、ソフトウェアに留まらず、ハードウェアの研究・試作・量産設計の技術協力など、さまざまな開発を展開しております。昨今では、さらに技術の幅を広げ、業務システムやWebシステムの開発に力を入れており、マルチレイヤーのシステム開発をワンストップ受注できる体制を確立いたしました。また研究開発、新規事業への投資を行い、ソーバルのさらなる発展に寄与する取り組みにも力を入れております。

そして現在も無借金経営の強固な財務体質を維持しております。

東北復興支援の意味を込めた株主優待制度は、同時に株主の皆様の日頃のご支援にお応えするべく、当社株式への投資魅力を高め、流動

性を確保することを目的としております。おかげさまでご好評をいただいております。今年度も実施を予定しております。今後も配当性向30%を目標に株主の皆様に利益還元を行い、新たなステージとして東証2部、東証1部を目指しより一層の業容拡大を目指してまいります。

1983年創業以来の、「技術で社会に貢献する」というソーバルの理念は、今後も変わらず貫いていきます。社会との結びつきとして、技術だけではなく様々なボランティア活動など、社会に愛され、貢献できる姿を描き、成長してまいります。ソーバルはすべてのステークホルダーの皆様から、より一層の信頼の獲得と、期待に応えるべく、全社一丸となって邁進してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とより一層のご鞭撻を賜ります様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

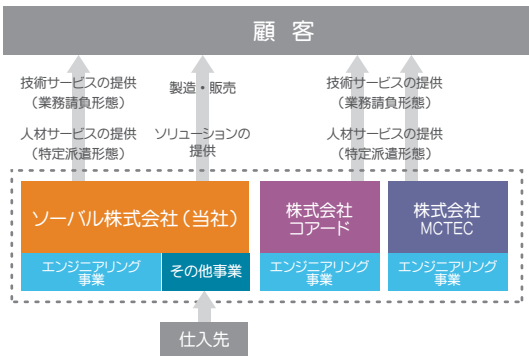
2013年5月
代表取締役社長

推津 順一

ソーバルグループの事業

当社グループは、ファームウェア、ソフトウェア並びにハードウェアの開発及び評価に関するサービスを、当社従業員の特定派遣及び業務請負により提供するエンジニアリング事業を主な事業として展開しております。

第31期より株式会社MCTECを連結子会社にいたしました。

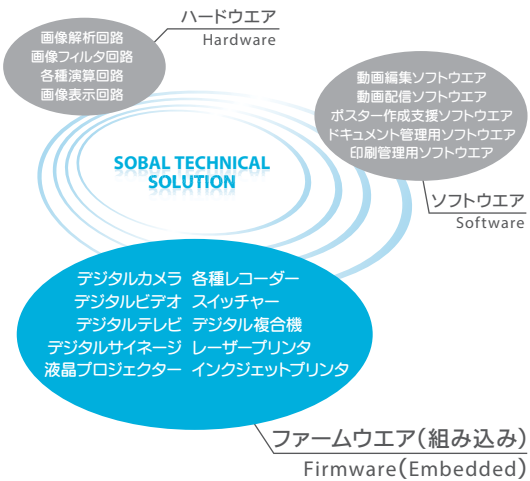


エンジニアリング事業

主として、デジタル製品メーカーに対し、ファームウェア、ソフトウェア並びにハードウェアの「開発」を支援するサービスを提供しております。同時に、開発中の試作品の不具合や仕様誤りをプログラムレベルで評価・検証したり、生産前の製品の品質評価をする「評価」サービスも提供しております。また、デジタル製品メーカー以外にも、精密機器や電子機器メーカーに対して、同様の技術支援サービスの提供を行っております。ソフトウェアでは、デジタル製品のアプリケーションツールやドライバの開発のみならず、Webアプリケーションの

開発にも携わっております。ハードウェアでは、LSI や DSP の設計・開発、周辺回路設計、さらに構造設計や機構設計の研究・試作・量産設計を開発範囲としております。

併せて、組み込みソフト開発において培われた技術基盤により、製品開発コスト管理支援ソリューション、組み込みシステム設計支援ソリューション、SoC 設計支援ソリューション、ソフトウェア製品化支援ソリューション、基板装置試作・量産支援ソリューション等の各種コンサルテーションを提供しております。



▲事業内容と実績例

その他事業（RFID事業、ネット関連事業）

その他事業として現在、「RFID」製品の開発、製造、販売及びネット関連事業を展開しております。「RFID」は、電波及び電磁誘導方式を用いた非接触型の自動認識技術であり、電子マネーや物流・在庫管理等の分野において利用されております。

事業の紹介と第31期のセグメント別業績概要

エンジニアリング事業

エンジニアリング事業は、お客様の職場にてエンジニアが役務を提供する「特定派遣」と、お客様からのご依頼を受け、ソーバル社内でシステムの設計開発を行う「業務請負」があります。

第31期概要

エンジニアリング事業の売上高割合は全体の99.2%を占めており、内訳は特定派遣が62.3%、業務請負が36.9%となっております。「特定派遣」と「業務請負」の二つの業務形態があることが、社員のスキルアップにつながっています。「特定派遣」においては、最先端の技術に触れることによるスキルアップ、「業務請負」においては、進捗管理や利益管理などプロジェクト運営にかかわるスキルアップが可能です。

バランスのとれた社員育成を継続的に行うことで、質の高いサービスの提供を行ってまいりました。

その他事業（RFID事業、ネット関連事業）

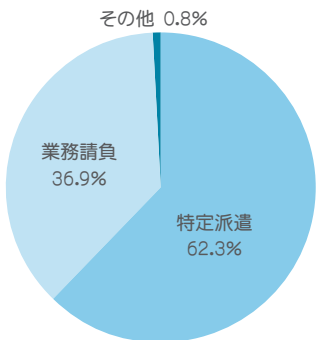
その他事業として、ソーバル社内の「知」から生まれたRFIDソリューションビジネスに取り組んでおります。

第31期概要

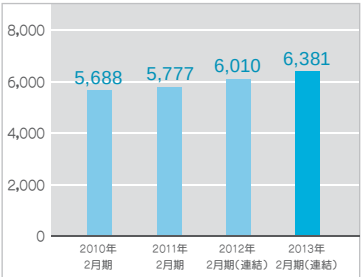
当社には個々に磨きあげられた専門技術を有したエンジニア（無線通信の技術者や、回路設計の技術者など）が数多く在籍しております。当社に入社する前には、ロケットを開発していたようなエンジニアも在籍しております。その結果、いろいろな側面から顧客の要望に応えることができ、幅広い受注が可能となっております。

また、従来のエンジニアリング事業では得られない、新しい顧客とのつながりをもたらしています。今後も、新規顧客の開拓を牽引していきます。

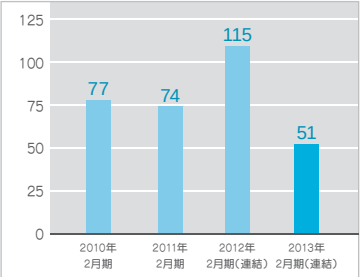
2013年2月期（第31期）
売上高内訳（6,433百万円）



エンジニアリング事業売上高（百万円）



その他事業売上高（百万円）



第31期の総括

Summary of the 31th term

当連結会計年度におけるわが国の経済は、復興需要を背景に緩やかな回復基調が期待されましたが、欧州債務危機に端を発した金融不安や、日中関係の悪化による貿易不振など先行き不透明な状況で推移いたしました。一方、長期において企業業績に悪影響を与えてきた円高は、昨年末の新政権発足前後から円安・株高基調に転じ、経済の先行きに対する明るい兆しが見え始めております。

このような経済環境の中、当社グループでは質と量の両方の向上を図るための各種施策を実施してまいりました。平成24年9月3日付で株式会社モバイルコンピューティングテクノロジーズ（現株式会社MCTEC）を連結子会社としたことをはじめ、新規顧客の獲得を実現するとともに従来より得意とする組込み系の更なる技術力の底上げ、急速に拡大しているスマートフォンやタブレットに関する技術者の養成に注力してまいりました。

これにより、エンジニアリング事業におきましては、コンシューマー向けの組込み系開発はもとより、業務系やWeb系システムの開発等を幅広く受注し、グループ全体としてより一層の強固な経営基盤を構築するとともに、リスクの分散を推し進めることができました。これらの結果、エンジニアリング事業の売上高は6,381百万円（前年同期比6.2%増）となりました。

一方、その他事業におけるRFID事業に関しましては、電波法再編に関する機器の置換の進捗が大幅に遅延いたしました。その結果、その他事業の売上高は51百万円（前年同期比55.2%減）となりました。

利益面に関しましては、引き続き待機工数の削減や間接部門の作業効率化を進めたことに加え、新規ビジネス投資の検討も実施してまいりました。

以上により、当社グループの売上高は6,433百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益は457百万円（前年同期比29.5%増）、経常利益は464百万円（前年同期比31.9%増）、当期純利益は246百万円（前年同期比35.6%増）となりました。

	2012年2月期 （第30期） （連結）	2013年2月期 （第31期） （連結）	前年同期 増減比
売上高 （百万円）	6,126	6,433	5.0% ↑
営業利益 （百万円）	353	457	29.5% ↑
経常利益 （百万円）※1	351	464	31.9% ↑
当期純利益 （百万円）	182	246	35.6% ↑
総資産 （百万円）	2,624	2,908	10.8% ↑
純資産 （百万円）	2,026	2,204	8.8% ↑
一株当たり 当期純利益（円）※2	41.94	56.83	35.5% ↑
一株当たり 純資産（円）※2	466.49	507.23	8.7% ↑
一株当たり 配当金（円）※2	13.00	17.00	30.8% ↑

※1 経常利益は、固定資産除却損を特別損失から営業外費用に計上する表示方法変更後の数値を記載しております。

※2 2011年11月1日付で当社普通株式1株につき、2株の分割を行っております。一株当たり情報に関しては、過去に遡って株式分割等に伴う調整計算を行い、記載しております。

今後の見通し

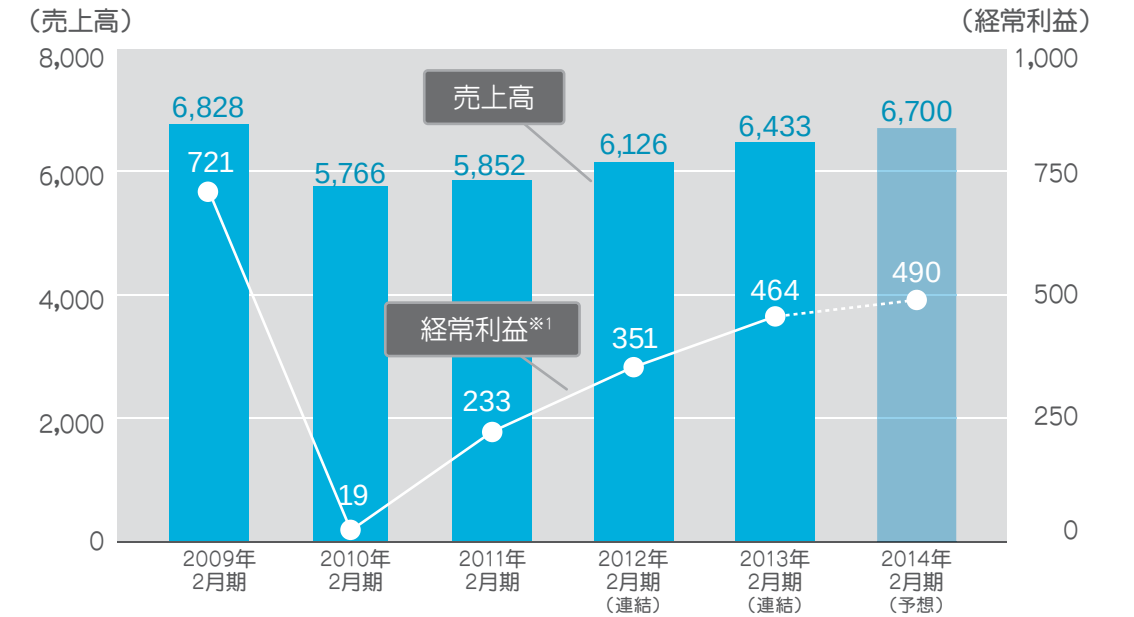
Future Prospects

第32期の展望

今後の経済の見通しは、当社グループの主要顧客であるデジタル製品業界の新規開発及びその他システム開発の需要においては、引き続き順調に推移していくものと思われます。

このような環境の中、当社グループとしましては発生したニーズに的確に応えるべく、技術者の技術・知識の向上を推進するとともに、より一層の営業活動を行い受注獲得を目指してまいります。一方、そのための人材育成、特にプロジェクトマネージャーやプロジェクトリーダー、並びに優秀な社員の採用等に関する先行投資も必要不可欠となっており、そのための各種施策を積極的に実施してまいります。

以上により、2014年2月期の通期の業績予想は、売上高6,700百万円、営業利益490百万円、経常利益490百万円、当期純利益265百万円を見込んでおります。



▲売上高、経常利益の推移予想（百万円）

※1 経常利益は、固定資産除却損を特別損失から営業外費用に計上する表示方法変更後の数値を記載しております。

中長期的な会社の経営戦略

当社グループが主とするデジタル製品の組み込みソフトウェア業界は、最悪期を脱し、持ち直しの兆しが見受けられます。しかしながら、デジタル製品の売上は、新興国経済に依存しており、国内での需要の停滞感は一掃されるまでには至っておりません。従いまして、今後も引き続き当社グループ顧客におきましては、パートナー会社の選別が進むものと思われまます。

このような状況の中、当社グループはより顧客に選ばれる企業となるべく、一層企業価値を高めていく必要があります。そのためには、さらなる高い技術力と顧客満足度の向上、また、当社グループを取巻く環境の変化に瞬時に対応できるよう、社員教育体制の強化、業務請負形態における作業の効率化を行ってまいります。

また、デジタル製品以外の新規分野の参入に關しても注力し、情報通信分野や医療機器分野、及び Web 関連開発の案件獲得及び新規顧客獲得に努めてまいります。

Point 1 人材育成・優秀人材採用の継続投資

Point 2 販路拡大、人材獲得に向けた M&A の実施

Point 3 新規事業の積極推進と競争力強化

新規事業の取り組みについて

技術の蓄積や自社ブランドの確立を目指し、新規事業へ取り組んでおります。

今回はお客様からもご好評をいただいている、新規事業の S4 Apps、読書ログをご紹介します。

S4 Apps <http://www.sobal.co.jp/s4/>

S4 Apps では iPhone、iPad、Andoroid 向けのアプリケーションを開発しております。音楽やエンターテインメントなど多種に富んだアプリケーション開発を行っており、ご好評をいただいております。



より詳細な情報をご希望の方は、S4 Apps のサイトをご覧ください。 [S4 Apps](#) [検索](#)

読書ログ <http://www.dokusho-log.com/>

読書ログはどなたでも無料で利用できる Web サイトです。書籍管理や本を通じて広がるコミュニティを支援すべく日々開発に取り組んでおります。



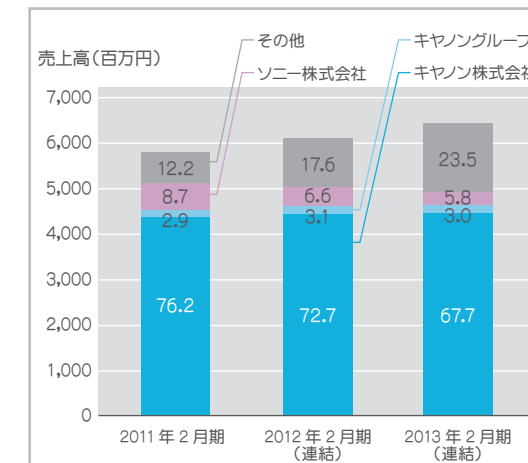
より詳細な情報をご希望の方は、読書ログのサイトをご覧ください。 [読書ログ](#) [検索](#)

取引先の状況について

当連結会計年度のキャノングループ全体への売上高は当社グループ売上高の 70.7%を占めており、経営の健全性確保の観点からも同社グループへの依存度をより低減させることが、以後の安定した経営を進める上で重要な経営課題であると認識しております。

この経営課題への取り組みとして、新規優良取引先の開拓は必須であり、積極的に営業活動を推し進めております。今後も引き続き、新規優良取引先の開拓を推し進めてまいります。従来からのデジタル製品メーカーに加え、情報通信分野、成長が期待される医療機器等の分野にも注力し、営業推進を行ってまいります。また、Web 系のシステム開発にも取り組んでまいり所存です。

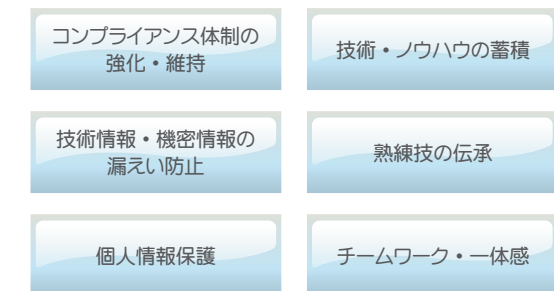
▼取引先別比率(%)



お客様の信頼を得るために

ソーバルでは、自社の技術力維持や雇用の安定のため、業務を担当するエンジニアの大半がソーバルの正社員です。

技術の蓄積、コンプライアンス教育、漏えい防止のための安全対策など、長期的な視野での教育も可能となり、お客様から高い安心と信頼をえられております。



高い安心感と信頼感

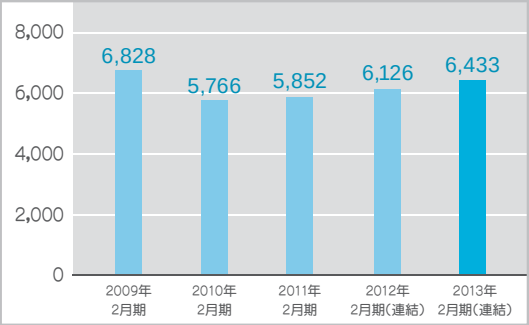
特定労働者派遣とは

「特定労働者派遣」とは、常用雇用労働者（正社員）だけを労働者派遣の対象とする労働者派遣形態です。

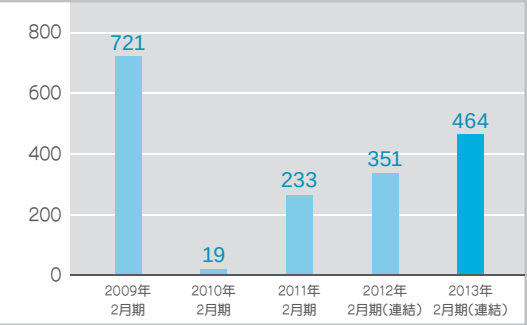
業績ハイライト
Financial Highlights

財務諸表
Financial Statements

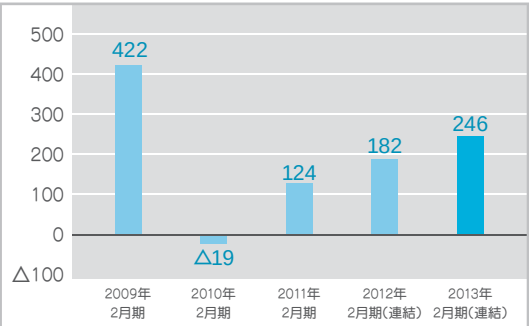
売上高（百万円）



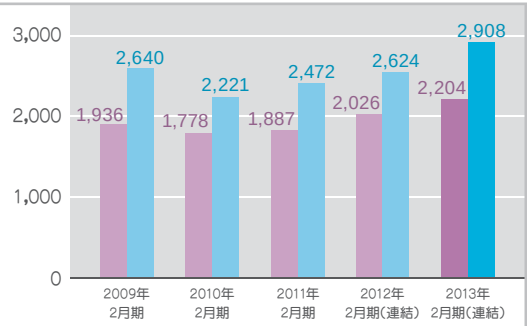
経常利益※1（百万円）



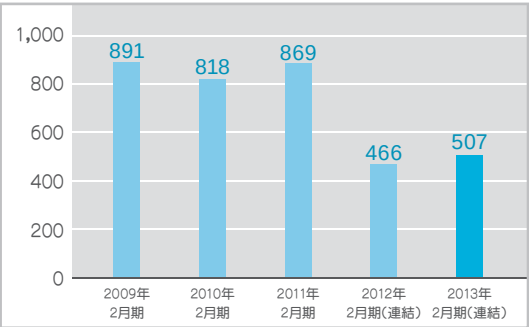
当期純利益又は当期純損失（△）（百万円）



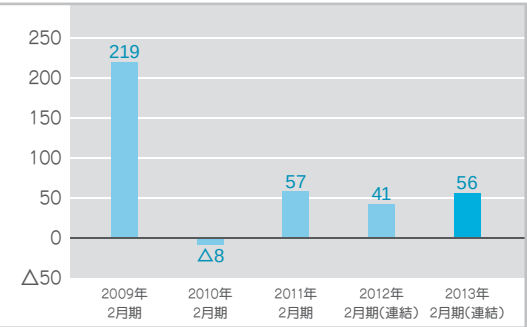
純資産／総資産（百万円）



一株当たり純資産※2（円）



一株当たり当期純利益又は当期純損失（△）※2（円）



※1 経常利益は、固定資産除却損を特別損失から営業外費用に計上する方法に変更した数値を記載しております。
※2 2011年11月1日付で、当社普通株式1株につき、2株の分割を行っております。なお、2012年2月期の一株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後一株当たり当期純利益金額につきましては、当該株式分割が期首に行われたものとして算出しております。

損益計算書

(単位：百万円)

科目	2012 年 2月期(連結)	2013 年 2月期(連結)
売上高	6,126	6,433
売上原価	4,943	5,219
売上総利益	1,182	1,214
販売費及び一般管理費	829	756
営業利益	353	457
営業外収益	4	7
営業外費用	5	0
経常利益※1	351	464
特別利益	3	—
特別損失	20	—
税金等調整前当期純利益	335	464
法人税、住民税及び事業税	135	208
法人税等調整額	18	8
当期純利益	182	246

※1 経常利益は、固定資産除却損を特別損失から営業外費用に計上する方法に変更した数値を記載しております。

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	2012 年 2月期(連結)	2013 年 2月期(連結)
営業活動によるキャッシュ・フロー	114	343
投資活動によるキャッシュ・フロー	29	△ 123
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 43	△ 68
現金及び現金同等物の増減額	101	151
現金及び現金同等物の期首残高	1,216	1,318
現金及び現金同等物の期末残高	1,318	1,469

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2012 年 2月期(連結)	2013 年 2月期(連結)
(資産の部)		
流動資産	2,369	2,610
固定資産	255	297
資産合計	2,624	2,908
(負債の部)		
流動負債	467	555
固定負債	130	147
負債合計	597	703
(純資産の部)		
資本金	212	212
資本剰余金	117	117
利益剰余金	1,696	1,874
自己株式	△ 0	△ 0
株主資本合計	2,026	2,204
純資産合計	2,026	2,204
負債純資産合計	2,624	2,908

2013年2月期の株主優待制度の内容

8月末現在で1単元(100株)以上の株式を保有する株主様に対し、東北の名産品やお米をお選びいただき、優待ギフトとして贈呈いたしました。ご指定いただかなかった株主様につきましては、1口1,000円を義援金として、日本赤十字社に寄付させていただきました。

4つの中から
選択

1 名産品

醤油とポン酢(2本) セット

2 お米

無農薬米 コシヒカリ(2kg)

3 おまかせ

りんごジュース(3本)

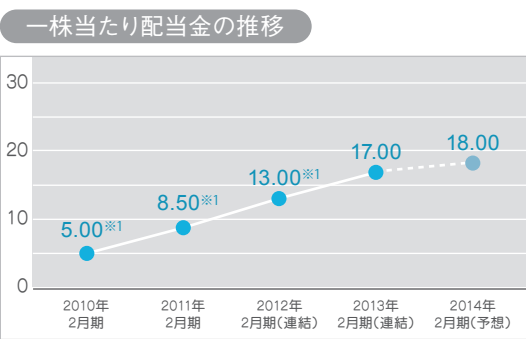
4 義援金

日本赤十字社に
521,000円を
寄付いたしました。

2014年2月期の株主優待制度の変更予定点

- 東北の名産品やお米など3種類のギフトの中から、ご希望のお品物をお選びいただけます。
株主様よりギフトのご指定がない場合は、1. 名産品 をお届けいたします。
- 日本赤十字社への義援金の寄付は1口2,000円となります。
- 2014年2月期の優待品の内容については、同様のものを予定していますが、数量等の関係で一部の商品を変更する場合がありますので、予めご了承ください。

配当政策



▲年間一株当たり配当金推移グラフ(円)

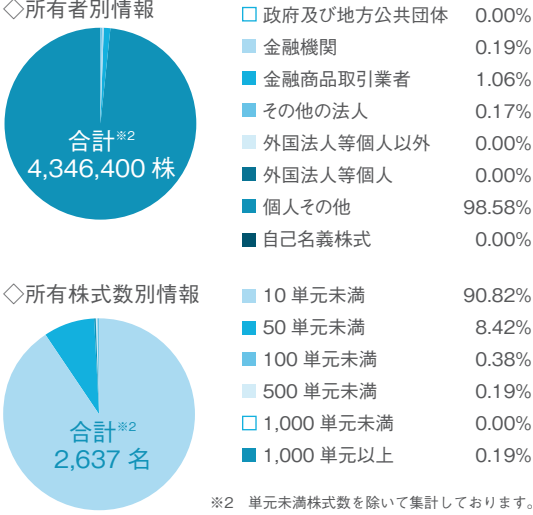
(基準日)	一株当たり配当金			配当性向
	第2四半期末	期末	年間	
2014年 2月期(予想)	8円00銭	10円00銭	18円00銭	29.5%
2013年 2月期(連結)	8円00銭	9円00銭	17円00銭	29.9%
2012年 2月期(連結)	5円00銭 ^{※1}	8円00銭	13円00銭 ^{※1}	31.0%
2011年 2月期	3円50銭 ^{※1}	5円00銭 ^{※1}	8円50銭 ^{※1}	29.6%
2010年 2月期	5円00銭 ^{※1}	—	5円00銭 ^{※1}	—%

※1 2011年11月1日付で当社普通株式1株につき、2株の分割を行っております。
一株当たり情報に関しては、過去に遡って株式分割等に伴う調整計算を行い記載しております。

株主情報

株式の状況		(2013年2月28日現在)
発行可能株式総数	14,800,000株	
発行済株式総数	4,347,200株	
株主数	2,746名	

株式分布状況 (2013年2月28日現在)



大株主 (2013年2月28日現在)

氏名又は名称	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
川下 奈々	998,720	22.9
推津 敦	998,720	22.9
ソーバル従業員持株会	655,000	15.0
推津 順一	393,440	9.0
推津 幸子	353,120	8.1
株式会社SBI証券	31,800	0.7
福島 則光	20,000	0.4
小島 弘行	12,400	0.2
笹野 茂之	10,000	0.2
定塚 祥大	10,000	0.2